



# 京都 YWCA

# 7 2012

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## 京都 YWCA 親子ライブラリーの日赤小児科病棟訪問 入院中の子どもたちに笑顔をお届けよう



みなさんの身近なお子さんが、入院されたことはありますか？

身体は少し楽になっても、食事や運動が制限され、本人や付添う家族がストレスを感じることも多いようです。親子ライブラリーのメンバーの子どもの入院をきっかけに、入院生活が少しでも明るくなるよう、YWCA 近隣の京都第二赤十字病院の小児科病棟で出張お話会ができないか検討しました。日赤の医療社会事業部や看護部、小児病棟のスタッフと話し合いを持ち、医療の妨げにならないよう、月に1回1時間、絵本を読む活動が2009年6月にスタートしました。親子ライブラリーの希望者10名が健康診断を受けた後、病院のボランティアとしても登録し、交代で読み語りを担っています。

感染症ではなく病室を出られる子どもは、プレイルームに集まってお話会に参加し、身動きできない子や赤ちゃんも、ベッドで絵本を楽しめるよう、毎月3～5名で訪問します。プレイルームには、点滴をしている子、ギブスをしている子もやってきます。病気や怪我で不自由な思いをしている子どもたちに、心安らぐ一時をお届けできればと、一緒に楽しめる絵本を読むことを心がけています。目を輝かせて聴き入る子もいれば、おもちゃで遊びながら耳を傾けている子もいます。

個室やベッドサイドでは、付き添っている御家族とも話しながら絵本を読むことも多く、聴覚障害のある女の子に、お母さんが手話で通訳してくれたこともありました。大腿骨骨折で牽引中の男の子が、痛みで泣いてばかりいたのに、絵本を読んでもらって初めて笑顔が見られたと、後で看護師さんから聞いたこともあります。

### 助成を得て絵本を病院に寄贈

毎回訪問前日に看護師長さんから、対象者の年齢や性別を連絡してもらい、喜んでもらえそうな本を各自持ち寄るのですが、行ってみると退院していたり、お昼寝していたりで、対象者が全く違い、用意した絵本では対応しきれないこともあります。そこで、2011年度に伊藤忠財団から助成を受け、赤ちゃんから小学校高学年まで、幅広い年齢の子どもに楽しんでもらえるような絵本を病院に寄贈することになりました。現在100冊以上の絵本を選び終え、プレゼントする準備を進めています。

こうして3年間、インフルエンザが猛威を振るった二回を除いて、毎月欠かさず事なく訪問を続けているのは、絵本を読んだ時に見せてくれる子どもたちの笑顔に、私達の方が元気や喜びをもらっているからに他なりません。楽しい時間を過ごした後、「また今度」ではなく、「来月は退院して会えませんように」と健康回復を祈って病室を後にしています。  
(親子ライブラリー 平野富希)



## 「京都を学び、味わう」大人のための修学旅行

# 京都の近代教育と時代を切り開いた女性たち

梅雨に入ったばかりの6月10日、雨を一番心配したが曇りのち晴れの旅行日和になった。まず京都YWCAで本庄豊さんによるレクチャーがあった。明治維新後、首都が東京に移り京都は元気がなくなったが、その京都を盛り返すため様々な近代化政策を取り入れ、特に教育に力を入れた。日本で最初の女学校「新英学校・女紅場」や「同志社女学校」が開設され、また明治2年に京都町衆が中心になって日本で最初の学区制小学校である64の番組小学校も開校した。この時代の状況を本庄先生はとても詳しく、また楽しくお話くださった。

そのあと、蛤御門から御所を抜けて廬山寺へ。ここは紫式部の邸宅址として有名。次に訪ねたのは府立鴨沂高校でその前身は新英学校・女紅場を受け継いだ府立第一高等女学校である。この学校には旧九条家から移築した正門と茶室が記念建築物として残されている。実は私がその卒業生ということもあって学内を解説付きで見学させて貰った。次に少し南に行くと同新島邸がある。同志社創立者新島襄の妻、八重は来年のNHK大河ドラマの主人公で、今話題の人である。昼食は下京の眺望の素晴らしいレストランで頂く。最後に、番

組小学校の一つ（開智小学校）が改装され現在は京都市学校歴史博物館になっている施設を見学した。京都の近代教育の歴史がよくわかる充実した1日となった。

(池上信子)



元新英学校・女紅場の正門であった鴨沂高校正門前にて

📖 オススメです！

### 〈増補〉放射線被曝の歴史 ～アメリカ原爆開発から 福島原発事故まで～

中川保雄著 明石書店  
2011年発行 (2300円+税)



神戸大学で科学史を教えた著者による旧版（1991年発行）に「フクシマと放射線被曝」の章を追加して昨年復刻された。著者は米国で発掘した膨大な資料から、米国は戦争中の「マンハッタン計画」の頃から人体実験までして放射線影響の研究を極秘に進めたことや、被曝影響の基礎データとされる広島・長崎の調査が数々の問題点をはらむ「過小評価」であったことを明かす。

放射線被曝防護の国際基準は、核兵器や原発を開発してきた側の人々が作ってきた。被爆国日本の原発推進は、世界的に原発推進を鼓舞する役割を果たしている。私たちは、米国原子力委員会主導で作られたICRP（国際放射線防護委員会）による防護基準の下にいることを肝に銘じたい。そこに流れる思想は、原子力の社会経済的利益と生物学的リスクのバランスであり、「利益を最大に損害を最小にするための合理的な損害の容認」である。49歳で病没した著者が投げた直球の告発の遺著である。

(上村兪己子)

## 京都YWCAには こんな素敵な講師が います。いっしょに 学びませんか？

英語講師

クリス・アーウィンさん



私は、カナダのマクマスター大学の歴史・英語学科を卒業後、1993年に京都にやってきました。私は、自分が住んでいる世界を見て理解したいと思っていました。英語を教えるうえで私が重視するのは、私たちの環境についての人々の考え方を反映する（色々な話題——時事問題、歴史、社会、科学などについての）パーソナルコミュニケーションです。それは人類全体の壮大な歴史でもあるわけです。旅は、私にこのことを理解するための枠組みを与えてくれました。山の頂上から海の底まで、地球はとても複雑だけれど、とてもシンプルでもあります。コミュニケーションはこの共通認識を見つけることに役立ちます。

私がコミュニケーションを教えていて得られる大きな喜びは、私もまた、生徒さんたちから英知という恩恵を与えられることです。人々が互いに語り合うことを続けられれば、色々な問題への解決策も見出せるのではないのでしょうか。

## 今年も福島キッズ夏のリフレッシュプログラムを実施します！

今年も福島の小学生の夏休みリフレッシュプログラムを7月23日～8月4日まで実施し、入れ替わり8月5日～10日までは中・高生のためのプログラムを予定しています。

小学生対象のプログラムは、キャンプや絵本、多文化共生プログラムを含めて京都YWCAの魅力満喫してもらおうという内容です。また、中高生は「学び」を中心とし、大学生や元教師たちによる学習支援に加え、京都について学び、大学での学食体験や大学見学も行う予定です。今年はホームステイの期間も長めに設定しています。これには、京都を第二の故郷と欲しているという願いも込められています。

### ボランティアとホストファミリーを大募集

そのためには多くのボランティアの協力が必要です。食事の準備やプログラム運営、プールや野外活動、時には子どもたちと一緒に銭湯へ行くなど。また、子どもたちを迎えてくれるホストファミリーも募集中です。

初めての人のためにも基本的なボランティア研修プログラムを用意しています。レクリエーションや救急対応などの実践編に加え、傾聴や子どもの権利についての講座やワークショップなど、各分野の先生方をお招きした研修プログラムです。

子どもたちには京都を楽しみ、京都で学んで帰って欲しいと思います。子どもたちのひと夏の思い出づくりのお手伝いを、どうかよろしくをお願いします。

7月のボランティア講座：7月7日(土) 14:30-17:30 基本的な心構えとして「傾聴」「被災者を支援すること」  
7月13日(金) 15:00-18:00 緊急時の対応「ケガ・病気・事故発生時などの救急対応法」

## シリーズ 福島から京都に避難して ②

### 子どもたちの夢の夏プロジェクト

西山 祐子

福島第一原発事故は私の故郷福島県の豊かな自然を放射能で汚染しただけでなく、それぞれの生活をも一変させてしまいました。住み慣れた古里や通いなれた学校を離れ大好きな友達と離れ離れになり、現在も多くが母子避難により家族と離れて暮らしています。京都府には福島県から約600名が避難しています。自主避難者は二重生活により経済的な負担を抱え、なかなか家族がこちらを訪れることもありません。

家族一緒に過ごすことや大好きな昔からのお友達と遊ぶこと、、、そんな当たり前のことが、避難している子どもたちはもうできなくなってしまいました。

避難してきた子どもたちに聞くと、「会いたいのは、お父さん、福島のお友達」。友達に会いたいから福島に帰りたいという子どもたちも。「福島のお友達に思いっきり外で遊ばせたい」という声も聞きます。

せめて、夏休みの少しの間だけでも、福島から避難している子どもたちに3.11以前まで当たり前だった家族や友達と一緒に過ごさせてあげたい。

### 同級生や家族に再会するプロジェクトが始動

そんな思いから子どもたちの願いを実現するために「子どもたちの夢の夏応援隊」を結成し、福島のお友達を京都に招待して思い出作りをもらう「同級生再会プロジェクト」、福島からお父さん、おじいちゃんやおばあちゃんを招待して家族一緒にお盆を過ごしてもらう「家族再会プロジェクト」を始動させました。

現在、少しずつ輪が広がり夏に向けて皆の知恵を出し合っているところです。「子どもたちの夢の夏応援隊」という文字とロゴの入ったTシャツもできあがり、京都の街をこのTシャツを着た人で埋め尽くそうなど途轍もないことを考えたりしています。このプロジェクトを通して福島の実状を知ってもらうきっかけになればとも思っています。参加する子どもたちがどんな表情を見せてくれるのか今から楽しみです。

★チラシや募金箱を設置できる場所やTシャツを販売できるイベント（バザー等）がありましたら教えてください。ボランティアも募集中です。

京都YWCA様からも賛助金をいただきました。ありがとうございました。

連絡先：西山 07056565621 minnanotekyoto@gmail.com

## 小学校高学年のための 「子どもの居場所」が京都YWCAに誕生

働く親にとって、仕事から帰るまで、子どもが安全に過ごしているのかどうかが一番気がかりなことです。小さい子どもには保育園が、小学校3年生までは学童保育があります。しかし、4年生以上の子どもたちには安心していられる場所はあまりありません。現在学童保育所を利用している子どもの親にアンケートを取って見ましたが、そこには親の切実な気持ちが書かれていました。

そこで、京都YWCAでは小学校4年生から6年生を対象に「子どもの居場所」を作ることになりました。今年の9月中旬より週3回で開始し、必要な子どもには手作りの夕食も提供して8時まで居られるようにします。

YWCAならではの多世代・多文化を背景にもつ人が、共に子どもたちと居場所を共有します。安心・安全のスペースで「宿題」や「遊び」「食べる」ことを実現します。加えて、これまで京都YWCAで実践してきた「子どもプログラム」(絵本と出会う、「平和」・「多文化共生」を考えるプログラム)を特別プログラムとして実施し、希望者はYWCAの子ども対象の英会話クラスなどの習い事にも参加できます(別途参加費必要)。

ぜひ、お問い合わせ&ご利用ください!

◎京都YWCA「子どもの居場所」

開 室：週3日(月火木) 15:00-19:00 (20:00まで夕食付の延長あり)

対 象：小学4年生～6年生(弟妹低学年の利用可能)

定 員：15名

利用料：12,000円/月(20:00までの延長の場合、500円/回)

\*7/1～募集要項配布 \*8月末説明会開催 \*9/1～登録開始 \*9/18(火)スタート!

(子どもの居場所事業運営委員会)

## 今後のプログラム

### 子どもまつり

2012年7月29日(日)

12:30開場 13:00～16:00

参加費：親子ペア 500円(1人増えるごとに+200円)、  
子ども 300円/人

人形劇団「NPO 法人むむのこ」による人形劇や影絵の他、参加者が様々なパーカッションに触れて、リズム遊びや音遊びを楽しめる「たいこセッション」など、親も子どもと一緒に夢中になれるプログラムを企画しています。

他、「親子ライブラリー」による絵本の読み語りや工作・玉ねぎの皮で布を染める「玉ねぎ染め」の体験・手作りお菓子の販売やお茶を飲んでゆっくりひと息、授乳やおむつ交換も可能なフリースペースを準備していますので、お子さん連れの方でも安心して参加していただけます。

◆ ◆ ◆

### 大文字パーティー

2012年8月16日(木)

18:00開場 18:30～

参加費：2,000円(会員1,800円)

ワンプレートディナー&アトラクション後、屋上からの送り火鑑賞

定員：先着50名(要予約)

多数のみなさまのお越しをお待ちしています。

### ご寄付ありがとうございました。

敬称略 (2012年4月1日～2012年5月31日)

#### \*一般寄付

光田敦子、小寺敬子、神門佐千子

#### \*指定寄付

東北地方太平洋沖地震 被災者支援：東海林、板垣恵、平敏、

生涯教育部：杉本康代

親・子育て委員会：木戸さやか

APT：池上信子、一色光世、古賀円、本田次男、メンセンディー・ク・マーサ、

APT有志、竹内昌代、金児明子、飯田奈美子、きょうとユニオン

国際：池上信子(洛楽)、内田匡子(洛楽)、一色光世

平和：木戸さやか(ブクラ)

活動G連絡会：ビーンズ、ミモザ

スリフトショップ：スリフトショップメンバー有志

ピアノ募金：斎藤豊子

ミニホール・キッチン改修募金：和田清子

賛助費：吉田 繁、中井和子、浅野久代、梓山悦子、松永公子、  
中川愛子、阪本清子、森 律子、深田ローラ、佐野千枝子

\*

あじさいバザールにご協力いただき、ありがとうございました。

以下の団体・個人よりご協力いただきました。厚くお礼申し上げます。

(株)山田松香木店、(株)ユニティー、平野歯科医院、(有)飯室商店、(株)マイチケット、(有)テラヲ貨物店、(株)オニザギ、(株)伊那食品工業、オ・グルニエ・ドール、(株)ティ・エム・エス、よつ葉ホームデリバリー西京都、ドクターショール、北垣景子、浅野久代、佐野千枝子、池上信子、山本知恵、筒井奈都子、東海和子、平野富希、有田孝子、山本千鶴、山本公平、宮武美知子、福嶋瑠美子、田淵豊子、吉田紀子、井上依子、下村泰子、勝山久仁子

### 5月・6月/理事会報告

- 「働く女性」が集まるということに主眼を置いたしゃべり場『プラットフォーム30』を開催予定。
- 留学生援助資金からの助成で留学生を「ひろしまを考える旅」に派遣予定。
- 夏の福島キッズ受け入れプログラム(小学生、中学生)の募集開始。  
ホームステイ先(ホストファミリー)を公募開始。
- あじさいバザール終了後、「わかちあいプロジェクト」を通じてタイの難民キャンプへ衣類寄付。在京避難者のバザール招待参加：19組

KYOTO YWCA No.509

2012年7月号(7月1日発行)

発行人 上村愈巳子

発行所 一般財団法人京都YWCA

京都市上京区室町通水上ル

電話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

URL http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (財)京都YWCA

定 価 50円